回答結果一覧

取得期間
2024/06/01~2025/12/31
*3件のみ個別事情を鑑みて2025年12月31日以後受領。

取得フォーム
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdfweuRRihx3wKqP2O5ANBXwPYXWBkNuUIQx4c3xWjObsR7PQ/viewform

有効回答数（**2026**年現在）
124

言語区別
- 日本語
- 英語
- 中国語

対象者
- 国内外の団体、個人
- 匿名選択可能

手法
- イベント実施時や国内外の関係団体へ共有
- ソーシャルメディア
- NPO法人ウェブサイト
- 知人経由

取得設問
必須回答設問は以下の1問
「戦後80年にあなたが伝えたいことは何ですか？」
“What is your message to commemorate the 80th year after the end of World War II ?”

回答全一覧

過去は反省の領域や、現在は改善の領域です。現在を生きている私たちは、将来私たちの姿を見て笑うことができることを願っています。
Peace!
日本以外の国から見える歴史的視点を尊重しつつ、前向きな協調のために何ができるかを強調した内容であればいいかと思います。
East Asian countries have to work for making shared heritage/thought/vision
Time to have peace
peace is achievable
I think we are living in peace world.
I want to emphasize the significance of peace in commemorating the 80th year after the end of World War Ⅱ.
Although 80 years pass, we are still 'close yet so far', I hope all Asia become more familiar and peaceful.
There must not be a war any more. War makes terrible and violent experiences and that experiences are inherited to the next generation and so on. Therefore, this horrible inherited experience make the conflict between the descendants of the countries that made war. So we need to make a principle that must not make a war against each others.
I think it can be meaningful at the context of reminding the importance of not repeating the same mistake. So i think we should think about the reason the war happened and the importance of peace commemorating the 80th year after the end of World War Ⅱ.
I believe promoting peace among the countries should be the main focus . In my opinion it must start from the education system.Creating awareness among the young generation can create a significant impact in establishing a strong connection between the countries.
Emphasize good aspects of cooperation in East Asia.
I think we need to transfer the message of importance of the sympathy to next generation. Because sympathy to war victim or country is the essence of the actual peace.
War, war it never changes. But human can change.
I think the key point is that this situation is ‘ongoing’. We just don’t know that the war is still on its pace, and it is our responsibility to know what condition we are living in, and what we should do. I hope there are more lecture like this afterwards since this class helped me to recognize what I can do for peace. またどこかでお会いできたらよろしいです。 本当にありがとうございました。

戦争をしたい人なんて居ないから、地球に暮らすみんなの衣食住を守れるように、それぞれが贅沢をしすぎずに、地球の大切な資源を守るために意識して、世界中を自分ごととして捉えていけたら良いなと思います。戦争だけは何が合っても起こってはいけないし、日本に今は起こってないから良いのではなくて、ずっと世界中の一人一人が意識して、伝えて行かないと平和は守られないと思います。これからも、小さな力だけども私にできることをやっていこうと思います。

嫌われたり攻撃されたり排他されたりする恐怖なしで、互いに語り続けたい。

戦争それ自体が悪であるとの価値観をすべての国で共有したい。

戦争はとても大きな暴力で、これ以上ないほどに残酷なものです。しかしその「大きな暴力」は、とても弱く小さい人間が生み出してしまうものでもあります。

人間は一人ではとてもその「大きな暴力」を生み出す恐ろしさに耐えることはできません。それでも、多くの人間が少しずつ手を繋いでしまうことで、「大きな暴力」は生まれてしまいます。一人ひとりが「自分にできる範囲で」「目をつぶって」「無意識に加担してしまう」ことで、誰にも止められない暴力は生まれてしまいます。

戦争は、本当に小さな日常の綻びから生まれるものだと思います。誰もが気付かないようなところに、戦争の火種はくすぶっているんだと思います。だからこそ、一人ひとりが「自分にできる範囲で」「目を開けて」「意識して向き合う」ことで、戦争を無くすことだって出来ると思います。

一人ひとりが社会を見つめ、隣で泣いている人に寄り添うことができれば、きっと人間はもっと人間らしい社会を作ることができるんだと思います。平和な世界を創るのは、私たち一人ひとりです。

戦争はとても大きな暴力で、これ以上ないほどに残酷なものです。しかしその「大きな暴力」は、とても弱く小さい人間が生み出してしまうものでもあります。

人間は一人ではとてもその「大きな暴力」を生み出す恐ろしさに耐えることはできません。それでも、多くの人間が少しずつ手を繋いでしまうことで、「大きな暴力」は生まれてしまいます。一人ひとりが「自分にできる範囲で」「目をつぶって」「無意識に加担してしまう」ことで、誰にも止められない暴力は生まれてしまいます。

戦争は、本当に小さな日常の綻びから生まれるものだと思います。誰もが気付かないようなところに、戦争の火種はくすぶっているんだと思います。だからこそ、一人ひとりが「自分にできる範囲で」「目を開けて」「意識して向き合う」ことで、戦争を無くすことだって出来ると思います。

一人ひとりが社会を見つめ、隣で泣いている人に寄り添うことができれば、きっと人間はもっと人間らしい社会を作ることができるんだと思います。平和な世界を創るのは、私たち一人ひとりです。

私たちがどのような未来を後を生きる人々に残したいか。未来を作る一市政として、責任が持てる行動をしよう

たとえ自分が体験したことがなくても、忘れてはいけないこと。「戦後」という言葉がなくなる日が来ても、あったことは忘れてはいけない。

Homosociality 抜きで人育てができるとは思っていない。だからこそ、倫理が一番大切である。性加害者と厳しい指導者が、決して交わることはない。

もう歪み合うのやめて仲良くましょうよ
政府は政府でダラダラせず一気に終わらせる努力をして欲しい
自分たちのアイデンティティっていう面では国籍だったりは重要なことではあるけどそれを引っ張りすぎるのではなくポジティブなものとしてうまく使えるような社会になって欲しい。

私たちはともに乗り越えていかないといけないと思う。そのために対話をして、共にぶつかり合い、共に新しい歩みをしなければならない。

知らずに嫌うのはやめよう。
誰かを好きになったり、嫌いになったりすることは誰しもあるし、それが自然なこと。けれど食わず嫌いは勿体無いし、自分がされたら違和感を感じると思う。
根拠なく嫌うのではなく、相手を知った上でその感情をもってほしい。
きっと嫌いだと思っている相手でも、その向こうにはあなたと同様に家族がいるし、共通点はある。

核抑止力は成立しない。言葉の力、対話の力こそ平和を守る最大の抑止力。核が平和を守るなど愚かな幻想。言葉の力で世界平和を守る。言葉の力で国籍、人種、世代を越えて平和の尊さを分かち合う。言葉の力で分断を断つ。孤立を防ぐ。核兵器、戦争の恐ろしさを未来に伝え、平和のバトンを継承していく役割が私たち若い世代にはある。長崎を最後の被爆地に。

日本が取り組むのは戦争問題ではなく戦後問題であり、先代ではなく今生きる者の問題であるということ。

私は日韓関係を考える際、友人の言葉から学んだ大切にしている価値観があります。それにちなんで書かせていただきます。私は、80年前と同じことを繰り返さない、他地域で起こさないために、これから未来を担う若者が持つべきものは「歴史の参加者意識」だと考えます。当事者では無いし、だからといって自分と無関係と切り離してしまうと人は忘れてしまう。過去の歴史に対して様々な価値観、考え方を持つ人との「対話」こそが過去と向き合うための手段であり目的でもあると思います。その対話を可能にするのが、相手に関心を持つこと、関心を持つ機会だと思うので、韓国や中国など東アジアの諸国に友達を作ることで対話に繋がると思います。その対話を通して、歴史への参加者意識が自然と芽生えると思います。被害の歴史に対しても加害の歴史に対しても参加者として問題意識を持つ事が大切だと思います

人はなぜ戦争を振り返るのか。それは、戦争も紛争も犠牲や後悔なしに終わることができないからです。一度始まれば戻ることができず、終わる時には責任と向き合わなければいけない。戦後80年という長い時間の中で、どちらか片方が悪い、という考え方は古くなってきたように思います。実際、どちらも悪かった。そんな当たり前のことに気付かず、認めず、保身に走る人は沢山います。それも仕方ないのかもしれません。でも、私は向き合います。自分の生きた時代の出来事ではなくても、戦争の中で必死で命を繋いでくれた家族に恥ずかしくないように、そして今なお残る対立から逃げないために。「戦後」が続く限り、私たちは反省し、対話し、平和な未来を創造する余地があります。自分と未来を守っていきましょう。

凄惨な戦争から80年経とうとしているというのに世界はまた歴史を繰り返そうとしている。私たちにできることは命の尊さと戦争が生み出す苦しみを伝え続けることだと思う。忘れ、戦争の記憶を風化させてはいけない。
英米、NATO、BRICKS、またロスチャイルドなど、様々な勢力がありますが、自分達の利益ではなく、日本人も含めて、真剣に世界平和を考えていただけたら幸いです。
自分ごととして考える、捉える。
ひとりでも多くの方が、囚人のジレンマを乗り越えるような価値観を持つために、個人も国もできることをしていく社会を望みます。
今後の世代も引き続いて日本の第二次世界大戦における責任について自覚し、未来志向で交流していく。 (謝罪・責任のような文言を市民レベルでどのように入れていくか？)
「戦後」と言いながらも、今でも世界では「戦禍」にいる人がたくさんいます。「戦争はしたくない」という人がほとんどなのに、どうしてこうなるのか、考えなければならないと思います。
社会は歴史の積み重ねによって創り上げられてきたからこそ、歴史は過去のことだから私たちが背負う必要はない、といって諦めることは、今の社会と向き合わないということと同じことだと思います。「歴史に向き合い続けてほしい」、この言葉を戦後80年を迎える私自身に、そして新しい世代の人たちに伝えたいです。
・日本の被害者性と加害者性双方がしっかり記憶されること；先の大戦では、日本側で数多くの市民や兵士が犠牲になったことのみならず、日本側（おもに軍）の加害によって海外で数多くの犠牲が生まれたこともしっかり記憶され、次の世代に伝達されていくこと ・日本がなぜ誤った道を歩んだのかを、しっかり多角的に反省しようとすること：「戦争はいけない」のような単純化された文言で済ませない
世界中に友達がいたのなら、戦争なんてやっている場合ではないと思えるでしょう。やさしさとは、知ることからと思います。

戦後80年という時が経ち、当時を経験した方から直接体験を伺うことが極めて困難になりつつあります。私の家族は、4名が戦死しました。一人は伊豆沖で、チューク諸島に向かう輸送船が魚雷攻撃を受け、海へと沈みました。一人は、グアム島で、猛攻撃に散りました。一人は、ガダルカナル島の激戦の中で、ジャングルに倒れました。一人はインドネシアで、過酷な餓えと厳しい衛生環境の中で命を落としました。残された家族は、戦争孤児となって、あるいは一家の大黒柱を失って、厳しい生活を過ごしました。被害者としての戦争体験は、家族の歴史として語り継がれています。一方で、私は戦争を生きた先祖たちの足跡を辿る中で、彼らが所属した部隊が、中国で、グアムで、現地の方々を虐殺した事実と向き合わなければなりませんでした。加害者としての戦争を発見したのです。
過去と向き合うことを、やめてはならないと思います。一方で、私はひ孫世代。ひたすら謝罪するという姿勢が、必ずしも正しいとは限らない。戦争という過去を背負い、次世代の平和を構築していく、そのために過去の戦争当事者たちの子孫が手を取る時代が来ているのだと思います。
奇しくも、欧州や中東で戦渦が広がっています。アジア情勢も不穏です。80年前の大戦を反省し、人々が平和を願って作られた国際連合は機能不全に陥り、理想とされた日本の平和憲法は時代遅れの平和ボケの代物とみなされつつあります。軍拡や戦争を想定した法整備・社会体制づくりが現実的だとされる中で、平和や対話の重要さを表明することは、バッシングや非国民との攻撃を受けかねない居心地の悪さを感じます。
こんな時代だからこそ、先人たちの戦争の歴史と、その後に平和を目指して積み上げてきた日々を振り返り、再考したいと思います。

「戦後」はまだ終わっていない

なんで戦争をするんですか？？？
戦争をする理由はたくさんあると思いますが、トップの人たちは国民のことも考えて欲しいです。
国民も考えてしっかりと最善策を出して欲しいなと思います。
国民はしっかりと被爆国としての意識などを持って、伝えていってほしいなと思います。
僕も頑張ります。

戦争の悲惨さを教えて今後このような悲惨さを繰り返さないように伝えたい。例えば防空壕の中を体験してどれぐらい当時が苦しいかを知ることが出来る

事実のもつ暴力性に向き合ってこそ、戦争を終わらせることができる。

To find the light of the future, we also need to acknowledge our past. As we head into the 80th year after the end of World War II, my heart goes to the victims and survivors of the atomic bombing. It is imperative now, even more so, to build peace so we don't repeat the pain again.

「文化の和解」に具体的な道筋をつけましょう！ 今「新たな戦前」と言われ、再び地球規模での紛争が起きることへの懸念が深まっています。戦争を起こさないためには、政治や経済の取り決めも大事ですが、何よりも人々の心の中に他国、他民族、他宗教を敵視しないようなマインドセットを育成することが喫緊の教育課題です。地球市民性（global citizenship）の育成をさまざまなステークホルダーが連携して系統的かつ効果的に進めるべきです。

第二次世界大戦集結から80年という節目に、私達は今一度過去の教訓を現在そして未来に活かさねばなりません。日本では、「戦争はダメだ」と実体験を元に語る戦争の痛みを直接知る世代が少なくなっています。現在の世界情勢は、決して対岸の火事ではなく、中東や東ヨーロッパで行われている戦争がいつアジアに飛び火してもおかしくありません。やはり平和は足元からです。東アジアに暮らす私達が、平和的な関係を結ぶために文化的、経済的、政治的な交流を促進していかねばならないと思います。

アメリカ支配からの脱却。

Eighty years ago, the world emerged from the shadows of World War II, a conflict that tested the limits of humanity's endurance but also ignited an enduring commitment to peace. Today, we honor the sacrifices of those who fought for freedom and remember the lessons that shaped our shared resolve to build a better world.

Let this anniversary remind us of the strength found in unity, the courage to reconcile, and the power of hope to overcome even the darkest times. May we continue to strive for peace, justice, and a future where the scars of war are replaced by the promise of harmony.

Together, we are the guardians of a legacy that must never be forgotten.

80 years after World War II, we, the youth, stand at a crossroads of history. In a world still scarred by conflict and division, we see the consequences of forgetting the lessons of the past. War reminds us of the price of hatred, and peace demands the courage to choose unity over division.

We call on humanity to rise above old mistakes—to listen, to heal, and to build bridges where there are walls. Together, we can transform pain into progress and fear into hope.

Let us be the generation that turns lessons into legacy—peace begins with us.

Dear Wake Up Japan Team,

Thank you for creating this platform to share messages of peace and hope on the 80th anniversary of the end of World War II.

As a Syrian who has lived through war and conflict since the start of the Syrian revolution, I understand deeply the devastating impact of violence and the urgent need for peacebuilding. This anniversary is not just a moment to remember the past, but also a call to action for all of us to work towards a future where the horrors of war are no longer repeated, in East Asia or anywhere in the world.

War leaves scars on individuals, communities, and entire nations, but I firmly believe in the resilience of humanity and our ability to rebuild, heal, and create a better world through dialogue, justice, and mutual understanding. Let this anniversary be a powerful reminder that peace requires commitment, collaboration, and empathy across borders and cultures.

I stand in solidarity with your mission and hope that together, through initiatives like yours, we can inspire a global movement toward lasting peace.

Warm regards,
Lama Drebati
Women's Rights Advocate, CoFounder of PeaceMakers Organization Syria

After the end of the Second World War, the world came together and established the UN and other global organizations to maintain peace and security. Yet, 2024 was a bloody year and we are still witnessing brutal wars that remind us of the world wars and may trigger a third one. If we don't collaborate together to maintain global peace, we will destroy our planet and life on it.
東アジア、東南アジア+ロシアの平和
Hoping that no child or person, from any nation, should experience any part of war.
戦争は絶対反対、起こしてなるものか、すべて話し合い、平和を崩してはならない。人間が人間を殺し合う。対避けなければならない。
戦争は多くの犠牲が生まれる。No more war. 武力行使は避けてほしい。
I wish that we could remember the past as it was, so we may build up better future together.
World War III is already underway, and the war culture is in complete control. Peace is not even in the game. This is because peace and environment and social justice activists are unable or unwilling to cooperate. All are working on tiny campaigns with tiny budgets utterly unable to affect global grassroots consciousness. We all need to identify our goal as “peace culture,” and we all (from individuals to communities to countries) need to push for sustainable self-sufficiency. We need to sell all speculative investments, take our money out of the bank, concentrate on learning to live without money, starting with learning to grow our own food. All countries need to refuse to pay onerous debt and refuse to accept money from the colonialists. We need to cause as quickly as possible the collapse of the financial/industrial/militarist civilization that is driving us over the cliff.
命は平等、そして尊い。
As we mark 80 years since the end of World War II, it’s the time to remember the past but also a reminder of our responsibility to build a future rooted in peace, unity, and understanding. We should never forget the lessons of war, and continue striving for a world where such conflicts are never repeated.
The absence of the war todays doesn't mean we are having peace. One of my lecture told me that "If people can make/use violence, so peace can also be taught". I always believe individual committed work contribute to peace. No matter who we are, we always are a part of the planet. Peace for all!
平和のために、まずは自分自身が、清々しく率直でありたい。

我是曾在北京大學、東京大學、早稻田大學取得過學位的，一直在研究中日關係及在各類中日友好組織付出自己綿力的香港人李冠儒。適逢戰後80週年，謹藉Wake Up Japan這個平台發表自己真實的看法。我非常樂見中日官方關係在石破茂任日本首相以來得到許多改善、日企漸漸對中國市場恢復信心，中日商業來往依然頻繁；同時，也為香港人普遍熱愛日本文化，頻頻到日本旅遊、交流的現狀感到高興。可另一邊廂，我亦清楚內地與日本民間因歷史原因、安全問題，現已嚴重缺乏互信，尤其是研究中國的許多日本教授，不再願意來到中國內地、香港，只前往台灣，變相在隔空研究，日本及內地關於對方的極端信息氾濫，圍繞香港的負面信息迴聲室效應日趨明顯。如今，二次大戰已結束80週年，中日兩國卻依然被歷史問題束縛，實在不得不讓人感到黯然。而作為研究中日關係的港人，更是十分清楚1941年12月到1945年8月期間，日本曾佔領香港並進行經濟統制，彼時確實通過配給制度、強制歸鄉等手段清理了大量本地人口，香港的軍票問題在戰後根本未被中、英、日任何一方妥善處理，至今仍未解決，倒是大部分受害者已然老死，有關歷史隨著時間被大多港人遺忘。毋容置疑，參考東南亞的歷史課程，正確的教育就是要讓人意識到過往日本的戰爭罪行，同時欣賞戰後日本在國際開發上的諸多貢獻；還應客觀指出幫助中國的日本人，與殘害中國人的日本人不是同一批人，前者留下了教訓，後者應該被讚美。學習、正視有關歷史，並不影響人們友日、知日，反而是中日關係再出發的根基，我由衷希望以二戰結束80週年為契機，中日民間重啟對話、回顧歷史，談談如何可以塑造安全交流的空間，好讓中日學界關係也自2019年岩谷將事件以來重回正規，拒絕極端民族主義綁架中日民間友好交流。最後，我一方面感謝日本各方在2019年以來對香港的關注，相信那是出於善意的，但另一方面我在此呼籲大家實事求是地討論當下的香港應該怎麼做，不能只論過去，不談現在，否則無法實事求是地改善香港人的處境，反而讓香港議題淪為妨礙中日關係改善的絆腳石。

民間空襲被害者を救済しなかった国

母たちの世代（敗戦時に10代半ばから20代）から戦争の悲惨さを伝えられました。それを次、その次の世代に伝えていきたいです。
日本が80年前に経験した国内での空襲や原爆被害やアジア各国での加害行為への反省をもとに作った日本国憲法の平和主義を堅持し、戦争を起こさない心をはぐくむにはどうしたらよいか、戦争を起こせる軍隊や武器をなくすために、政府に武器を買わない・作らせないためにどうするかを考え、今参加している憲法9条の会、平和のための戦争展などの活動を続けていきます。スマホやPCの戦争ゲームを平和ゲームに変えていってはどうでしょう。
日本に来ている主にアジアの子どもたちの日本語や学習支援をしています。日本は平和な社会という評価を受けています。それはきっと日本国憲法の平和主義とつながっていると思います。

戦後80年の節目に私が伝えたいことは、平和は当たり前ではないということです。私たちは戦争を知らない世代として平和ではない状況を身をもって体験したことはなく、それにより平和は当たり前だと思い込んでしまうことも多いです。ですが、戦争の記憶を風化させず、受け継ぎながら過去に学び、対話を重ね、未来へと繋げていく努力が必要だと考えます。

腹を割って各国の若者が話せる場があれば、お互いを知る機会があれば、平和は続いていく。百聞は一見にしかず。外に出て手を取り合っていきましょう。

戦後80年に私が伝えたいことは、平和の実現を諦めてはいけないということです。第二次世界大戦という大きな戦争が起き、私たちは戦争の恐ろしさを学んだのにも関わらず、世界では未だに戦争が起こり続けています。そんな状況を見て、戦争なんて防ぐことはできないんだ、平和なんて実現できないんだとネガティブになっている人もいるかもしれません。ですが、それでも戦争が起こらないように私たちは努力を続けるべきだと考えます。なぜなら、やはり戦争は多くのものを失うからです。人の命をはじめ、そこにあった生活や誰かの居場所まで全てを奪ってしまいます。特に今は国同士の繋がりも非常に強いため、自国では戦争が起きてなくても様々な影響が出てきます。戦争は絶対に起きてはいけないものです。私たちはそのことをもう一度強く心に刻み、どうしたら平和を実現できるか考えることをとめず、大きな影響を与えることはできなくとも、平和への取り組みに興味をもち、参加していくことが重要だと考えます。

日本では戦後80年。80年間戦争や紛争は起きていません。世界においても戦争や紛争などがなくなり世界が平和で満たされるよう切に願います。
戦争や紛争がないことが平和ではありません。すべての人が人として尊厳をもって大切にされ安寧のうちに生きることができますように。また、地球上のすべての生き物が多様性のうちに豊かに生を全うすることができますように。心から祈ります。

非戦条約、日本国憲法9条、国連憲章の戦争禁止の遵守。これらに基づき、日本は、80年間、平和の文化を培ったきた。

戦後80年に私が伝えたいことは、戦争の悲惨さを忘れてはいけないということです。戦争から80年経った今、戦争を実際に体験した人の数は減少しており、戦争の悲惨さが伝わりにくくなっています。その中で戦争の記憶を忘れさせず未来の戦争をゼロにするためにも、私たちは戦争の悲惨さを忘れず後世に伝えていくべきだと思います。戦争による被害者が少しでも減るように、全ての人が「戦争を起こさない」という意識を持つべきです。

命の尊さ。戦争は過去のものではないこと。今日、今この瞬間も地球のどこかで凄惨な戦場に怯える夜を過ごす人間がいるということ。戦争をはじめる人とそれに加わる人は、決して特別な人なのではなく、私たちのようにごく普通に日々の暮らしを送っていた人間だということ。（つまり他人ごとではないということ。）

戦後80年の節目の年を通して、私は平和が当たり前ではないということ、そして今ある平和を維持することの二つが大切です。当たり前のように感じる平和な今がある中で80年前の人たちは明日を生きるために必死だったということを忘れてはいけないと思います。二度と悲惨な戦争をしないためにも今を生きる私たちが戦争を経験した人たちの話を受け次々の世代に残すことが必要です。

戦後80年で私が伝えたいことは、どれだけ戦後時間が経っても戦争の脅威を忘れてはいけないということ。この先時間が経つにつれて、実際に戦争を体験した方やその体験を直接聞いた方がどんどん減ってきたり、しばらく日本で戦争が起こっていないことで戦争への警戒心が薄れてきたりするかもしれない。しかし、そうなることで気が緩んでしまい戦争に発展してしまうことがあるかもしれない。また、唯一の被爆地である日本が戦争の恐怖をもっと世界に発信していかないと世界で戦争がなくなることはないかもしれない。そのため、世界で戦争が消えるためには私たちひとりひとりが戦争の脅威を忘れず、これからもその脅威を発信し続けることが大切だと思う。

戦後80年に私が伝えたいことは、2つあります。一つ目は、過去に起こった戦争の悲劇を後世に伝えることが重要だということです。現在の課題として今の若者や子供たちは昔、どのうような戦争が起きたや、どれだけの人がなくなりどのくらいの被害を受けたかを知らずに「日本は平和な国」だと思っている人が多くいると思います。また、学校の授業で習うだけではテストのための知識としかならない為、あまり関心を持てないと思います。なので平和のための活動をしている人に伺ってみたり、テレビなどのニュースを見る機会を増やしていくべきだと思いました。二つ目は、今でも戦争は身近な存在にあるということです。日本だけで見ると一見、平和に見えますが世界は広くウクライナやロシアなど他の国でも戦争が続けらています。そして、一番怖いのが戦争の終わりが今もわからないことです。2022年から始まり2年以上続けられています。これについて、私たちは他人事だと捉えずに今私たちでもできることが少しでもないか考えるべきだと思いました。

近現代東アジア国家間における戦争は東アジアの2千年に及ぶ国際関係の視点から見れば例外的な時期であり、この過ちを繰り返す事なく東アジアが自立を取り戻し東アジアのルネッサンスを興し平和と繁栄を築き世界のお手本をなれるように切に願います。

戦争を経験された方々の思いを伝えたい。

私が戦後80年に伝えたいことは平和は当たり前のものではなく自分たちで守っていかなければならないということだ。今現在私達は日本に住んでいて、実際の戦いに巻き込まれることなく平和に暮らすことができている。だけれど、今この瞬間も例えばウクライナやガザなどで戦闘が行われていて、毎日多くの人が怪我を負ったり亡くなったりしている。日本も例外ではなく、今は平和だけど、もし台湾有事が起こった際には米軍基地がある沖縄は間違いなく攻撃されるだろうしその他の地域も戦闘に巻き込まれる危険性は高いと思う。そのことを回避するためには外交を正しい距離感で各国と行っていくことが大事だと私は考える。だから、私達は今の平和を当たり前だと思わず、政治参加して自分たちの平和を守っていくことが大切だと思う。

僕が戦後80年に伝えたいことは、今が当時の出来事を直接聞ける最後の機会だということです。1945年当時に20歳だった人は今年100歳を迎え、実際に出征した人というのは貴重な存在になっています。また、当時軍人であっても、機密を話すとその時の同僚に面目が立たないと思う人や、ものすごい恐怖体験をして二度と思い出したくない人もいるので、当時の出来事を話してくださる方々の声や思いを記憶だけではなく、記録に残すことが今しかできない、するべきことだと考えました。

私が戦後80年に伝えたいことは、「平和の大切さ」と「被害者の声を忘れないこと」です。戦争で苦しんだ多くの被害者の存在を知り、尊重すること。そして、平和の大切さを理解し、同じ過ちを繰り返さないように心がけるべきだと思います。歴史を学び、被害者の声を次の世代に伝えていくことが私たちにできることなのだと思います。

私が戦後80年に伝えたいことは平和の重要性である。私自身は戦争を経験していないが、この平和を守り続けていくこと、世界が平和になるための方法を考え続ける必要があると伝えたい。また、昨今ウクライナ侵攻をはじめ世界情勢が不安定となっている。そうした中ですべての一人ひとりが平和について考える必要がある。また、戦争を否定し、多くの命を奪う核兵器や殺人兵器をいかに減らしていくのかの道を議論していく必要がある。

私が戦後80年に伝えたいことは、戦争はすべての人を不幸にするということだ。戦争は人を殺すために育てられた軍人でさえ、狂わしてしまう。また、関係のない民間人にも犠牲を及ぼし、普通に生きたいと願っている人も巻き込んでしまうものである。これらのことを踏まえた上で、戦争はすべての人の人生を狂わし不幸にするということを心に留めた上で、絶対に起こさないようにするべきだ。

過去を学び、今に活かすことで平和を目指せるということ。しかし、過去の情報は事実と異なるものや時代と共に変化してしまった情報などがあることを理解し、全ての情報を鵜呑みにせず多くの情報から柔軟な思考を持って学ぶことが大切だということを意識することが大切だと思う。

戦争を知らない世代が多数を占めるようになり、戦後80年という時間は、歴史の中で「過去」として処理されつつある。しかし、その「過去」は決して遠い話ではない。戦争は情報が制限され、異なる意見が排除され、「国のため」という言葉のもとで個人の自由や命が軽く扱われたとき、多くの人々は自分の気持ちを押し殺して生きるしかなかった。私が伝えたいのは、戦争体験者の語りをただ聞くだけで終わらせるのではなく、「自分が同じ立場だったらどうしたか」と立ち止まって考えることの重要性である。誰かの痛みを想像する力こそが、戦争を遠ざける第一歩となる。そして、平和は「当たり前」ではない。意見の異なる人とどう向き合うか、他国との摩擦をどうやって言葉で乗り越えるか。そうした日々の選択の積み重ねが、戦争を防ぐ力となると思う。平和を守るとは、決して受け身の姿勢ではなく、むしろ「何があっても人を傷つけない方法を選ぶ」という強い意志であると思う。80年が経過した今だからこそ、我々は「戦争を知らない世代」として、責任をもってその記憶を引き継ぎ、「平和を続ける」という選択をし続けなければならない。それは簡単なことではないが、きっと人間にしかできないことであると思う。この節目に、過去に目を向け、今を見つめ、未来に問いかける。私はその姿勢を忘れずにいたい。

戦後80年が経ち、戦争を直接体験した世代が少なくなってきている。私は戦争を経験した人が生きていて話を聞くことのできる最後の世代として、平和の尊さを正しく受け継いでいかなければならないと思う。学校で学ぶだけでは実感しにくいが、戦争によって多くの命や日常が奪われた事実は、決して忘れてはならない歴史である。今、当たり前に過ごせている毎日も、多くの犠牲と努力の上に成り立っている。過去の過ちを繰り返さないためにも、戦争の記憶を風化させず、平和を守る意志を次の世代へと語り継いでいきたい。

戦後80年という大きな節目である今年に、改めて歴史を振り返り過去から学んだ上でそれを未来に生かしていくことの重要性を伝えるべきだと考えた。終戦から80年が経ち、戦争経験者が減ってきている現代社会で戦争という悲惨な歴史を風化させること無く二度と繰り返さないようにするには(現在起こっている戦争を止める)、過去をもう一度学び、向き合うことが必要であると考える。また、それを踏まえて平和の大切さを再認識し他国との協調を目指すことも鍵となるだろう。唯一の原子爆弾による被爆を受けた国である日本だからこそ世界に伝えられる事はあると思うし、それを世界にも伝えなければならない。

戦後80年に私が伝えたいことは、今ある日常を当たり前だと思わずに、日々感謝して生きることです。私たちは戦争を経験していないため、今ある平和を当たり前のように感じられるかもしれません。ただ、それは先人たちの多くの犠牲や努力によって成り立ったものです。戦後80年という節目に当たる今、戦争に対しての学びを深め、記憶を語り継ぐことが、平和な世の中をつくることにつながります。平和は、誰かがつくってくれる、守ってくれるものではありません。私たち一人一人がその価値に気づくことが大切です。

戦後80年で私が伝えたいことは、戦争を単に過去の出来事とするのではなくて、私たちが未来を作っていくための教訓として受け止めていく姿勢が大切だということです。過去の戦争による多くの被害や人々の苦しみを語り継ぎ、風化させないこと。また、戦争の発端や意味を正しく学び、認識すること。そうして過去の出来事と正しく向き合うことが、未来の世界の平和をつくる私たちの在るべき姿勢だと私は考える。なので、戦争を学ぶ意味を正しく広めていくことが重要である。

私が伝えたいことは、私たちは戦争を忘れないようにしなければいけないということである。戦後から80年が経ち、当時生きていた人たちもこの世を去ってしまい、戦争の恐ろしさをいつ忘れてもおかしくない現代に私たちは生きている。その中で再び戦争を起こさないようにするため、生還者の言葉を映像や文章などに残し、記憶を風化させない努力が必要だと考える。ただし、私たちが受け継ぐべきものはただ一つであり、それは戦争を起こした政府への怒りや憎しみではなく、これ以上戦争が続かないようにという祈りのみである。

今、世界ではフェイクニュースが広がり、法の支配や民主主義が崩れつつあります。歴史的に見れば、戦後の平和は「異常」とも言えるほど特別な時間でした。でも、その平和が終わろうとしているのかもしれません。

だからこそ、今を生きる私たちが、事実に向き合い、分断ではなく対話を選ぶことが大切です。
平和は当たり前ではなく、守ろうとする意志から生まれるものだと、私は信じています。

戦後80年を迎える今、私が伝えたいことは、「平和は当たり前ではなく、努力と記憶によって守られるものだ」ということである。
戦争の悲劇と教訓を忘れず、過去の犠牲の上に今の暮らしがあることを認識し、そして、その記憶を次の世代に語り継ぐことが、未来の平和を築くために欠かせない。
また、平和とは単に「戦争がない状態」ではなく、人々が尊厳を持ち、自由に暮らせる社会であることも忘れてはならないと思った。多様性を尊重し、対話を大切にする姿勢こそが、今後の平和に必要不可欠であると考えた。

戦後80年で私が伝えたいことは、どれだけ戦争から時間がたったとしても戦争の脅威や教訓は忘れてはいけないと言うことです。いま、私たちが平和に戦争なく暮らせているのは当たり前ではなくて戦争を経験した人たちが私たちに伝えてくれたり、戦争の危険さを世界に、後世に伝えてきたからこそいまの生活があります。なので、戦争を経験してなくても戦争経験者の話を聞いてそのはなしを後世に伝えることが今の私たちの使命だとおもいました。

私が伝えたいことは、今、生きているこの平和な日常は、数えきれない犠牲と苦しみの上に築かれていると言うことだ。戦後80年が経ち、戦争を知る人々の声は少なくなってきた。その分、戦争の記憶が薄れてきている。記憶が薄れていくことは、同じ過ちを繰り返す危険がある。だからこそ、体験者の言葉を記録し、次の世代へと手渡していく努力が必要だ。戦争の悲惨さ、失われた命、壊された日常、それらを忘れないことで、初めて平和の大切さを実感できる。どんな理由であれ、戦争を再び起こすことを許してはいけない。そのために、記憶を語り継ぐことは、今を生きる私たちの責任だと考える。

私は、戦争を知らない世代に生まれた。戦争のことは、学校で歴史の授業として学んだり、ひいおじいちゃんの話を家族から聞いたり、戦争体験者の話を聞いたりなどして触れてきた。そんな中私は、ひめゆり学徒隊がモチーフとなった「cocoon～ある夏の少女たちより～」を鑑賞した。これは、太平洋戦争の沖縄戦を題材とし、南の島で暮らす少女が主人公の物語。この物語を見て特に印象に残ったのは、主人公の現実逃避によって血が花として描かれていることであった。人々が銃で撃たれた瞬間そこから大量の花が描かれた。それを見た私は悲しいと同時にすこし美しいと感じた。私はそのとき命が失われていく瞬間を丁寧に美しく表現されていると感じた。現実逃避をしていなければとても耐えられる状況ではなかったのだと思った。私とかわらない年齢の子たちがこんなにひどい経験をしたと思い知らされた。今年戦後80年を迎えた日本には、戦争を知る人が減り続けている。こんな時だからこそ、私たちは戦争の過去を知り、未来にむけてさらに行動する必要がある。このような映画を見ることも重要な学びだと思う。このような体験をもう誰もしないためにも、私たちの平和を守り続け、命の重さを感じなければならない。

戦後80年を迎えた今に僕が伝えていこと、感じていることは存命している戦争体験者がどんどんゼロに近づいているということです。戦争とは何か、戦争というものがいかに残酷でひどいものだったか、どれだけの人が苦しんできたのかを語り継ぐ能力が今まで以上に求められてくると考えるからです。後世にどんどん伝えていくためにはもちろん、伝承者である僕たちが数少ない戦争体験者の証言や映像に多く触れて多くを知ることが必要だと考えました。そのために僕たちは昔のことだからと目にとめないのではなく、先祖がどれだけ苦しんだのか先祖の努力があってこその今の日本だということを積極的に調べていく必要があると考えます。

また、今までの戦争の現状を知ったうえでこれからを生きる人間としてどうするべきかを考える必要があると考えます。過去を振り返っているだけじゃ、前に進めないのでアクションを行うことが必要だと思います。今の若者に戦争について知ってもらう必要があるのなら本に長ったらしく書くだけではなくてポスターにまとめてみたりSNSを使ってみたりすることが今後のカギになっていくと考えます。

もうすでに多くの人は戦争について次の世代に伝えていく必要があると気づいていますが、一番大事なのはそれを伝える方法だと思います。

戦後80年を迎えて、一番伝えたいことは、「平和は守り続けなければならない」ということだ。今、戦争をそもそも体験していなかったり、体験談を聞けるという世代はどんどん限られた人数になってしまっている。だからこそ、戦争の悲しさや教訓、そう言ったものを風化させないで、バトンを繋いでいくべきだと思った。そして、未来へと平和の大切さを残していき、平和を築く力へと変えていくことが今日本に必要なことだと感じた。

偏見に基づかずに、互いの意見を聞く耳を持つことが重要だと思います。

80年前に起きたことは「再び起こらないこと」ではなく「起こらないことは必然ではないから、我々の手で再び起こらないようにしなければならないこと」だということ
私は、現在世界で起きていることを常に学び、それが正しいことなのか批判的に思考していくことが戦後80年続いてきた平和の形を守ることにつながると伝えたいです。現在、世界各地では様々な国同士での紛争が続いています。それは、なぜ起きているのか世界の情勢や歴史から紐解いて考える力を付けることで、今後どのようにして世界の平和を保つことができるのか考えることができると思います。また、私達の多くの世代は、戦争を経験していません。戦争を経験していないからこそ、得ることのできた平和的な考え方や私たちが学ぶことのできる機会を伝え、多くの人々と共有していくことが平和へつながると考えます。
戦後80年が経った今、実際に戦争を体験している人が数少なくなっているのが現状の事態である。私たちができることは、「戦争の悲惨さ」、「平和への大事さ」を次の世代に伝えていく責務がある。具体例を出すと、広島、長崎の原爆である。今、原爆を体験している人、被爆体験をしている人は数少ない。もう一度、「原爆でどれぐらいの人が被害をうけたのか？」、「どのぐらい被害が出たのか？」などの戦争の悲惨さを考える必要がある。もう一度このような事態を起こさないためにも私達の責務は大切である。
戦争を繰り返してはいけない、核兵器を使用してはならない、人種差別してはいけない
戦争を実際に体験した人から話を聞ける最後の世代だから、私たちが学んで後世に残していかなければいけない。
自分が体験していない戦争であっても、戦争の歴史や戦争時の人の記憶や感情を忘れてはいけないということを伝えたい。なぜなら外面的だけの戦争を見るのだけでは本当の戦争を知ったとは言えないし、日本は唯一の被爆国なので体験者の話を聞き伝えていくことが大切だから。なので私のような戦争を経験していない世代の人でも戦争体験者からの話を聞き記憶に留めて次の世代へ伝えていかなければいけない。
正しい情報を知り、上手く子孫に伝えていくということ。
戦争から年が経つにつれて戦争に対する記憶は風化していっていて、戦争に対する危機感が薄れつつあります。それに伴い、平和が当たり前になっていると感じます。今現在ウクライナやガザなどで戦争・紛争が起きていますが、それらも年が経ってどこか遠くで起きている、他人事のように思っている人が増えつつあります。そのため、私たちや未来の世代が平和を維持・保守するための意志を持ち続けられるように、学校の義務教育など子供の時から平和に関心を持ち続けられるような環境づくりをして行くことが大切だと思います。また、今生きている人々もより平和に関心を持てるようにより身近なSNSやインターネットでも具体的に詳しく知れるような場所が必要だと考えました。
戦争から80年もの月日が経ち、正直良くも悪くも戦争の恐ろしさ、悲惨さが遠のいてしまっているように感じます。そんな中で私は戦争の悲惨さについて学び、この悲劇は2度と繰り返してはいけないと強く思ったとともに、今もかつての日本国民のように戦争により苦しんでいる人が世界にいることをなんとかしなければならないと思います。

戦後80年という節目を迎える今、私たちはあらためて「戦争とは何だったのか」を問い直し、過去から学び続ける必要がある。年々、実際に戦争を体験した人々は少なくなり、戦争の記憶や教訓は次第に風化しつつあると感じる。しかし、だからこそ、私たち若い世代がその歴史を知り、受け継ぎ、未来に語り継いでいかなければならない。
戦争によってもたらされた悲しみや苦しみ、失われた多くの命。それらは決して数字や教科書の一文で済ませてよいものではないと思う。過去に起きたことを変えることはできない。私たちにできることは、その過去を深く知り、二度と同じ過ちを繰り返さないようすること。平和は当たり前にあるものではなく、多くの犠牲と努力の上に成り立っていることを忘れてはいけない。
また、私たちが学ぶべきなのは日本の歴史だけではないと考える。他の国々でも数多くの戦争や紛争が起こり、現在もなお続いている地域もある。世界全体の歴史や現状に目を向け、互いに理解し合う努力をすることが、国際社会の一員としての責任であり、平和な未来を築く第一歩になると私は考える。
戦後80年という今だからこそ、過去の出来事に真摯に向き合い、平和の尊さを改めて心に刻み、次の世代へと語り継いでいきたい。それが、今を生きる私たちに必要なことだと思う。

戦争体験者に今こそ出会い、耳を傾けたい
戦争はいやだ、怖い、悲しい、だめ、と伝え、戦争のない世界を願い続けてくれた戦争体験者に、生きててくれてありがとうと伝えたい

記憶の忘却に抗おう。Don't forget the memory of the war.

戦争で何をしてきたのかを知ったうえででしか、本当の意味での平和は構築できないと思います。歴史や他国との関係性を知る努力を重ねたいと思います。

戦争中の人間の苦しみや残虐さなど、負の遺産はなかなか伝えるのが心理的につらく、社会的にも目を背けがちです。しかし、正負の歴史をバランスよく伝えていくことで、より良い未来を築くための生データ、そして学びを通して知恵となります。最近利用可能になった新しいデバイスも活用して、高齢化する経験者の方々からの知識や思いをしかり記録する節目にしたいと思います。

今は本当に「戦後」といえるでしょうか？日本はあれ以来確かに戦争をしていませんが、第二次世界大戦後、世界から戦争がなくなった日があったでしょうか？子どもの命が戦火で失われ続けてきたことに悲しみと怒りを覚えます。また、戦争を体験した人の心身の傷は一生消えません。戦争はある意味一生続きます。それでもなお戦争を続ける人間は本当におろかだと思います。

日本政府は、東アジアや東南アジアに侵略したこと、現地の方へ暴力行為を行ったことを認めて謝罪して欲しい。

80年前の戦争は、まだ終わっていないです。日本国内でみれば、日本人として戦争に召集された台湾、韓国の人への補償も行われていず、東京大空襲で被害を受けて民間人への補償もない。また、私の親しくしているインドネシアでは、1945-1949までのインドネシアの独立戦争に参加してインドネシアに残留した日本兵の孫は、「侵略者の子孫」といじめにあっています。それは、きちんとした対応を、戦争に参加した兵補、戦争で被害をうけた市民に行っていないからです。戦争前に、権力に近い人にほど厚く処遇され、遠い人は薄い処遇でしたが、戦後も同様の国のかたちです。「被害のすくなかった人から寄付を集め、被害の多かった人に再配分する」という市民の側にたった視点が政府にも、市民にも求められるように思っています。

I hope we humans can really learn from history and stop repeating wars in the future.

集団的安全保障から、共通の安全保障への転換が求められている

90数年前に生まれた父が今年亡くなりました。田舎育ちだったのであまり戦争の被害を受けることもなく、平凡で穏やかな人生をまじめに生き通しました。人は他の生き物と同じように生まれて生きて死んでいくものです。だからこそ、人や生き物を自然の摂理や人の道に反して殺めたり傷つけたりしてはいけません。80年の世界を見ると、なかなかできないものです。自然の摂理とは何か、人の道とは何か、なかなか見えません。それで、学問・学術があって言論・表現があって情報・記録があって思想・信教があっていろいろ学んだり集めたり残したり考えたりしています。事実や真実や正義は不断に努力しないとはかなく消えていき、抹消・捏造や虚偽や不正がはびこりやすいものです。たとえ自衛のためであっても戦争はしない、軍隊は持たない、核兵器をはじめとする兵器は持たない、有害物質を増やしたり環境中に出したりしない、そのためには他の国にも同じことを求めなければならず、容易ではありません。覚悟を持って生きて死んでいく、それが自然の摂理であり、人の道です。
80年、国家主権の主導で戦争をおこなってこなかったことは貴重なことです。平和ボケだお花畑だ現実をみよ云々といわれても、若い世代において非戦の考えを貫いていくことがやはり重要だと思います。
戦争の負の側面について学び続ける必要がある。人の痛みをわかるようになるためには、平和教育を続けていくこと、過去から目を逸らさず、向き合って学びを得ていく必要がある。
理解、解決できなくとも対話を続けたい、忘れたくない。言葉を紡ぎ続け、聞き続けたい
理解することの難しさを知り、理解するために必要なことをわたしたちはもう一度学ぶことが必要だと思います。国を越えて手をつなぎ何かを行う経験がもっと必要だと思います。例えば音楽は国籍、世代を越えてひとつの事を共に考えていくツールになると考えています。まだそこまで活用されていないことを使って新しい時代を作り上げたいと思います。
平和はつくるものであること、維持するものであること。 すべての人は、同じ人権を持つ人間であること。 文化やルーツ、立場が違っても、お互いに尊重することはできること。
As we mark 80 years since the end of World War II, YIH KS encourages young people to remember that peace is not something inherited—it is something we must actively protect. The lessons of the past remind us that intolerance and violence can have lasting consequences, while understanding and cooperation can shape a better future. By learning from history, today’s youth have the power to reject hatred, stand up for human dignity, and build a world where dialogue and respect prevail across borders and generations.
Eighty years after the end of World War II, we are reminded through this initiative that peace is built through consistent commitment over time. Year after year, governments take actions that may appear small, yet their impact reaches far beyond expectations. This teaches that peace is not only inherited; but it is built, protected, and renewed by each generation. We remember the resilience of those who rebuilt from the ruins, choosing hope over hatred and cooperation over division all these years. Their determination laid the foundations for peace, international dialogue, and a shared commitment to prevent such devastation from ever happening again. Through these efforts, many people—myself included—have been able to experience firsthand the willingness and determination of the Japanese people to create, uphold, and protect positive change. Today, it is our responsibility – all - to take an active role in shaping a more just and united world, grounded in dialogue, mutual respect, and solidarity across borders. Like the stone David used to defeat Goliath, these thoughtful actions implemented, prove that even modest initiatives, guided by unity and perseverance, can help build lasting peace and inspire future generations.